

加藤 俊二 カトウ シュンジ

名古屋大学教育学部卒業(1964), 愛知県豊橋・中央・一宮・岡崎各児童相談所心理判定員及び主査(1964～1986), 中央児童相談所・新生寮・コロニー療育部課長(1987～1996), 愛知県津島児童相談所所長(1997), 愛知県保育大学校長(1998～1999), 愛知県心身障害者コロニー養楽荘荘長(2000), コロニー療育部部長(2001), 日本福祉大学赴任(2002).

【研究分野】

臨床心理学, 発達心理学 (特に少年期から思春期の非行, 不登校家族への臨床, 発達心理学的支援), 児童福祉論.

【キーワード】

産業構造の変動と児童問題, 生活問題と臨床心理学.

【担当授業科目】

学 部: 社会福祉援助技術演習.
通信教育部: 児童福祉論, 社会福祉援助技術演習, 社会福祉援助技術現場実習, 社会福祉援助技術現場実習指導, 社会福祉援助技術論.

【主な研究テーマ】

1. 不安定就労階層家族の児童の中に出現してきている重層的な発達の遅れの臨床的実証的解明
90年代から今日に至る長期の経済的社会的な不況の中で, 低所得階層家族をはじめ不安定就労階層家族の児童の中に出現してきている《社会的・精神的・身体的発達の遅れ》としての『重層的な発達の遅れ』(仮説)の臨床的実証的解明.
2. 人間発達と心の臨床・発達心理学的支援, アプローチの研究さらに中年期問題, 次への熟年期, 高齢期問題への支援, アプローチの検討
幼少期から少年期・思春期, 青年期の発達を中心に《人間の心理的, 社会的発達のすじみちとその時々々の課題》の支援, さらに40歳代～50歳代の働く人々のいわゆる“中年期問題”, 次への段階の熟年期, 高齢期問題への支援, アプローチの検討.

【主な研究業績】

<著書>

- ・『児童福祉論 講義資料』第2版(オンデマンド教材), 単著, 日本福祉大学通信教育部, 2011.04.
- ・『日本の児童相談』, 共著, 「バンザイ, 俺は福祉司だ!」 pp. 47-83, 明石書店, 2010.11.
- ・『児童養護と青年期の自立支援』, 共著, 「児童相談所における青年期を展望した自立支援」 pp. 119-125, ミネルヴァ書房, 2009.07.
- ・『社会福祉士受験ワークブック2010』, 単著, 中央法規出版, 2009.07.
- ・『児童福祉論』(オンデマンド), 単著, 日本福祉大学, 2009.04.
- ・『現代児童福祉論 第2版』総頁315p, 編著, 「第I編第1章 人間の成長・発達と児童心理」 pp. 1-11, 「第II編第5章 児童福祉とは何か」 pp. 51-60, 「第II編第6章 児童福祉の思想と理念(1)」 pp. 61-73, 「第II編第7章 児童福祉の思想と理念(2)」 pp. 74-81, 「第III編第10章 経済成長と児童福祉との拮抗」 pp. 112-123, 「第III編第11章 福祉見直し論のなかで」 pp. 124-135, 「第III編第12章 社会福祉基礎構造改革論のなかで」 pp. 136-154, 「第III編第13章 児童相談の現場から」 pp. 155-165, 「第IV編第17章 その他の児童福祉関連法」 pp. 202-212, 「第V編第20章 児童福祉行政・専門機関の組織と専門性」 pp. 238-245, 「第V

編第21章 児童福祉関連分野の組織・機関および連携のあり方」 pp. 246-255, ミネルヴァ書房, 2009.03.

- ・<作文集>『しあわせな明日を信じて 乳児院・児童養護施設の子どもたち』総頁350p, 共著, 「自分の生きてきた歴史を綴る意味」 pp. 94-97, 「生き急がなくてもいい. もっともっと長いお時間をかけて」 pp. 250-253, 福村出版, 2008.07.
- ・『2009社会福祉士受験ワークブック専門科目編』, 共著, pp. 78-147, 中央法規出版, 2008.06.
- ・『社会福祉援助技術論』総頁274p, 編著, 「第I編第1章 社会福祉援助技術の基本(1)」 pp. 2-13, 「第II編第7章 人間発達のライフステージの概観」 pp. 60-71, 「第II編第9章 児童・少年期の課題と援助」 pp. 79-87, 「第II編第10章 思春期・青年期の課題と援助」 pp. 88-97, 「第II編第11章 中年期危機と援助」 pp. 98-107, 「第II編第12章 高齢期の課題と援助」 pp. 108-117, 「第III編第13章 社会福祉援助技術の基本(2)」 pp. 118-126, 「第III編第14章 低所得層における世代間継承の事例とその解明」 pp. 127-136, 「第III編第15章 重層的なネットワークによる支援」 pp. 137-148, 「第III編第16章 生活(史的)援助の事例」 pp. 149-162, 「第III編第17章 生活(史的)援助と臨床ソーシャルワーク活動」 pp. 163-172, 「第III編第19章 施設での生活と自立の援助」 pp. 182-197, 「第IV編第20章 勤労者家族問題へのソーシャルワークによる援助」 pp. 198-210, 「第IV編第21章 社会福祉における臨床心理学」 pp. 211-218, 「第IV編第22章 臨床心理学の基本的視点と援助内容」 pp. 219-229, 「第IV編第23章 ソーシャルワークと臨床心理学との共同の仕事」 pp. 230-239, ミネルヴァ書房, 2008.01.
- ・『現代児童福祉論 初版』総頁314p, 編著, pp. 1-11, pp. 51-81, pp. 111-161, pp. 199-207, pp. 231-248, pp. 283-313, ミネルヴァ書房, 2005.01.
- ・『改訂 臨床心理学』, 共著, 「ソーシャルワークと臨床心理学」 pp. 110-118, みらい, 2002.01.
- ・『子どもの権利条約時代の児童福祉』, 共著, 「児童相談所における実践と展開」 pp. 16-25, ミネルヴァ書房, 1996.04.

<論文>

- ・「地域子ども組織と権利・発達・臨床論」, 『日本福祉大学社会福祉論集』第116号, 単著, 日本福祉大学社会福祉学部・日本福祉大学福祉社会開発研究所, 2007.03, pp. 43-73.
- ・「格差社会における大人と子どもの関係」, 『人間会議』06冬号, 単著, 宣伝会議, 2005.06, pp. 110-115.
- ・「ジェネレーションギャップ『いまどきの若者論』への接近」, 『介護人材養成』, 単著, 日綜研, 2005.04, pp. 51-56.

<その他>

- ・<対談>「日本の児童相談をたどる」, 『そだちと臨床』Vol. 5, 2008.12, 総頁160pのうちpp. 28-35.

【社会における活動と仕事】

全国児童相談問題研究会(2008～), 青少年組織を育てる愛知センター 会長(2000～).